

誰一人取り残さないための学力向上アクションプラン

令和7年5月1日現在

江戸川区立船堀第二小学校

全国学力・学習状況調査		
A・B層の割合		
年度	国語	算数
令和8年度の目標	80.0%	80.0%
令和7年度の目標	70.0%	70.0%
令和6年度の結果	65.2%	56.1%
令和5年度の結果	62.1%	65.7%

令和6年度江戸川区学力調査結果		
A・B層の割合		
学年	国語	算数
第6学年	69.9%	64.1%
第5学年	56.0%	61.4%
第4学年	54.8%	61.6%
第3学年	57.6%	53.1%



目標達成に向けた取組

	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> ○令和6年度までの研究内容を継承し、組織的な授業改善を行う。 ・国語科説明的文章を柱に「子供が見通しをもち、学びを生かすことによる主体的な学習」を目指した校内研究を深めていく。 ・3～6学年での教科担任制を活用し、教科の特性に応じた系統的な指導、指導と評価の一体化を通して、授業改善を推進する。 ・学年や若手研で、「船二小授業作りスタンダード」を活用してOJTを推進する。個々の教員の指導力を高め、組織的に授業改善を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○主にB、C層を対象として、学力の底上げを目指す。 ・週2回のベーシックデイで、学年の課題に応じて東京ベーシックドリル等を活用した学習を実施し、漢字や言語、四則計算の技能の定着を図る。 ・「江戸川区算数授業スタンダード」を習熟度別少人数指導に絡めて弾力的に活用し、課題や適用問題の設定などを中心に授業改善を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○家庭と連携し、家庭学習の習慣化、内容の充実を図る。 ・「やってよかった！船二式家庭学習」を活用し、目的に沿った家庭学習の方法を児童や家庭に伝える。 ・年度当初の学力向上担当からの話や、年3回のStudy weekを通して、(学年×10+10)分間の家庭学習が身に付くよう協力を呼びかける。
特に支援が必要な児童・生徒への手だて	<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜の教材研究日などに、学年や教科担当が連携して教材研究を推進し、支援の手立てを明確化した授業を行う。 ・一律ではなく、自由度の高いもの、個に応じた教材などを活用して、個に応じた指導を充実させる。 ・子供が安心して学習できるように、算数、理科、社会ではノートの指導方法を統一し、子供が安心して学習できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別少人数指導のC、D層を対象としたクラスでは、適用問題を精選し、解き直しの時間を十分に確保する。 ・4、5、6年生を対象とした放課後学習教室では、「江戸川区学力定着度調査」「ベーシックドリル診断シート」等に基づいた個人カルテを活用して学習を個別化し、既習事項の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Study weekを節目にして、各学級で内容や時間配分などを共有し、目標時間に到達していない児童が見通しをもって家庭学習に取り組めるようにする。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況調査「児童・生徒質問紙」における「主体的な学び」の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の肯定的回答80%以上を達成しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「全国学力・学習状況調査」および「江戸川区学力調査」の結果において、A,B層の割合7割を達成しているか。 ・「江戸川区学力調査」結果において、5年算数の正答率83.1%を達成しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Study weekの全学年の目標達成率90%を達成しているか。